



木工教室

グリーンウッドワーク

～オノ（ナタ）とナイフで丸太を遊びつくそう～

<今月のご案内>

グリーンウッドワークとは、身近な森からとった木を乾燥させずに生の状態でものを作る木工のこと。今回は、グリーンウッドワークでよく使う道具“オノorナタ・ナイフ”の基本的な使い方を学びます。自分だけの作品をつくってみましょう（木べらなどを作る予定です）。

講師：草刈 万里子さん 道内各地でスプーンづくりやイスづくりなどの
(函館在住・グリーンウッドワーク作家) ワークショップを行っています。

- 【日 時】3月7日、14日、21日（すべて土曜日） 【定 員】5名（町民優先）
- 10:00～12:00 【持ち物】汚れても良い服装、Myナイフ（あれば）
- 【対 象】大人（3回すべてに参加可能な方） Myナタもしくはオノ（あれば）
- ※初心者でもOK 【申込み】3月5日（木）までにブナセンターへ電話
- 【場 所】ブナセンター木工房 【その他】送迎が必要な方は要相談。
- 【参加費】3,000円（3回分）

くろまづないの
自然いちおし情報

木の「冬芽」を観察してみよう！

冬の間、木々は雪をかぶり、じっと寒さに耐えているように見えます。そんな木々の枝先には、春に芽吹くための葉や花がぎゅっと詰まった、個性豊かな「冬芽」がっています。



ブナの冬芽

15～30mm
葉が入っている

葉と花が入っている

表面にあるうろこ状の「芽鱗」をはがすと...



ブナの冬芽の中身

冬芽のいろいろ

「冬芽」のかたちや寒さ対策は、木の種類によってさまざま。ブナは何枚もの「芽鱗」をかさね着していますが、むきだしの裸のまま、冬を乗り越える木もあります。ぜひ身の回りにある「冬芽」を見つけて観察してみてください。春の芽吹きの様子も楽しみに！

ブナの冬芽の特徴

ブナの冬芽は、先がとがった細長い形をしており、色は栗茶色。表面にあるうろこ状の「芽鱗」は、18～26枚重なり、冬芽の中にある葉や花を寒さから守っています。

今年は、少しふっくらとしたブナの冬芽も散見されます。これはとくに「混芽（花芽）」といい、中には葉のほかにも花も入っています。

※ブナが芽吹くのは例年5月上旬。混芽は早く、4月下旬から。

ブナと同じかさね着タイプ



ミズナラ

皮質コートタイプ



ホオノキ

はだかタイプ



オオカメノキ

※細かい毛に覆われている

参考：『落葉広葉樹図譜—冬の樹木学—』四手井・齋藤（1989）共立出版p.83-84



歌オブナ林は2028年に天然記念物指定100周年を迎えます



FacebookのQRコードはこちら

発行所：黒松内町ブナセンター
〒048-0101 北海道寿都郡黒松内町字黒松内512-1
TEL 0136-72-4411 FAX 0136-72-4440
MAIL bunacent@host.or.jp HP <https://bunacent.host.jp>
FB <https://www.facebook.com/kuromatsunai.bunacent>

おそ
ヒグマを正しく知り・正しく恐れよう

— ブナセンター講座「ヒグマと生きる」開催報告 —

1月25日（土）役場コミュニティホールにて、ブナセンター講座「ヒグマと生きる」を開催しました。町の現状、ヒグマの生態、そして身を守る方法まで具体的に学びました。



講師：早稲田 宏一氏
NPO法人EnVision環境保全事務所

いつもわたしたちのすぐそばにいる

北海道には現在約1万頭のヒグマが生息していると言われています。ヒグマの年間行動範囲はオスで数百km²、メスで数十km²にも及び、私たちとヒグマの生活圏は重なっているといえるでしょう。

しかし、私たちがヒグマと出会っていたとしても、多くの場合、ヒグマのほうが先に人に気づき、静かに立ち去っています。事故が起こるのは、ほとんどが突然遭遇した場合。つまり大切なのは「出会わない工夫」です。野外を歩く際には、①爪跡やフンなどの痕跡に注意することや、②物音を立てる、単独行動を避けるなど、ヒグマにこちらの存在を知らせることが大切です。

町のヒグマ事情

産業課より本町のヒグマ対応状況を紹介しました。

箱わなを設置しても倒されたり、別の動物がかかってしまったり。一筋縄ではいかない現場のご苦労がうかがえました。

実物資料を使った解説。毛皮の大きさやフンの中身からも、生態が見えてくる。

基本的に人はヒグマの食べ物では「ない」！

近年では「人を食べる動物」というイメージを持つ人もいますが、基本的にヒグマにとって人は食べ物ではありません。季節に合わせて草やアリ、木の実など様々なものを食べる雑食性です。

ヒグマの大きな体を維持するためには大量のエネルギーが必要で、その時一番手に入りやすいものを沢山食べます。そのため、農作物などの「楽に沢山手に入る食べ物」に味をしめてしまうと、人里に繰り返し出没するようになってしまう場合があります。生ゴミや収穫物を野外に放置しないなど、ヒグマを人里に寄せ付けない工夫が必要です。

クマスプレーを実際に体験

講座後、練習用クマスプレーの噴射体験を行いました。射程距離（今回は約5m）にヒグマが近づいたことを想定し、噴射しました。

☆クマスプレー使用時のポイント

- ・最も重要なのは、「慌てないこと」。
- ・すぐ取り出せる場所に携帯しておくこと。
- ・いったん噴射したら出し惜しみせず、最後まで使い切ること。



練習用クマスプレーを噴射しているようです。

人はヒグマを捕獲して暮らしてきた歴史がありますが、近年の捕獲圧の減少によりヒグマは増えています。人の暮らしとヒグマとの距離をどう保つのか。捕獲も含めた管理が必要だというお話が印象的でした。まずはヒグマを正しく知り、正しく備えることが、私たちの暮らしを守る第一歩です。（永田）